

後期高齢者に対する 高効率透析の検討

援腎会すずきクリニック
○鈴木 一裕 鈴木翔太



はじめに

- ・ 近年、わが国では透析患者の高齢化が急速に進行している。
- ・ 高齢者の透析量については、一般的には活動量が少ないため、透析導入時点から透析量を少なめに設定している傾向がある。
- ・ 当院では、透析時間延長・血流量増加・オンラインHDFを組み合わせたしっかり透析を提供し、患者の予後改善を目指している。
- ・ 高齢者でも、明らかに状態が悪い場合を除き、転院時から時間及び血流量を増加させている。
- ・ 現在行っているしっかり透析が高齢者ではどのような結果となっているか検討したので報告する。

対象

- 当院で継続的に透析をしており、転院後1年以上経過している75歳以上の11名について後ろ向きに検討した。

対象患者(11名) mean±SD

平成24年11月現在

透析方法	on-lineHDF:7名、HDF:1名、HD:3名
年齢	78.1±3.3歳
DW	55.7±7.9 [kg]
透析歴	52±20ヶ月
透析時間	4.6±0.4 [時間]
血流	327±64 [mL/min]
Kt/V	2.09±0.4
%CGR	106.8±24.3
GNRI	98.6±8.9



方法

過去1年間の経過中の

透析時間と血流量の変化
透析方法と透析膜

栄養状態の変化として Alb、GNRI、%CGR

Inbodyより 筋肉量、脂肪量、浮腫率

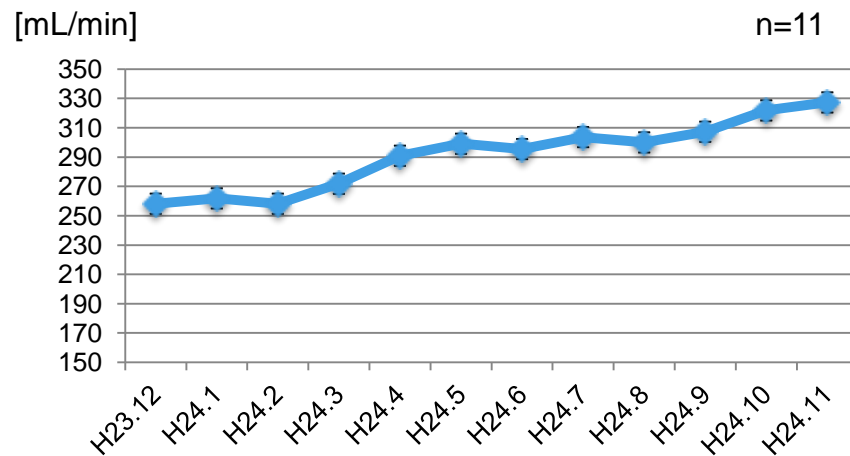
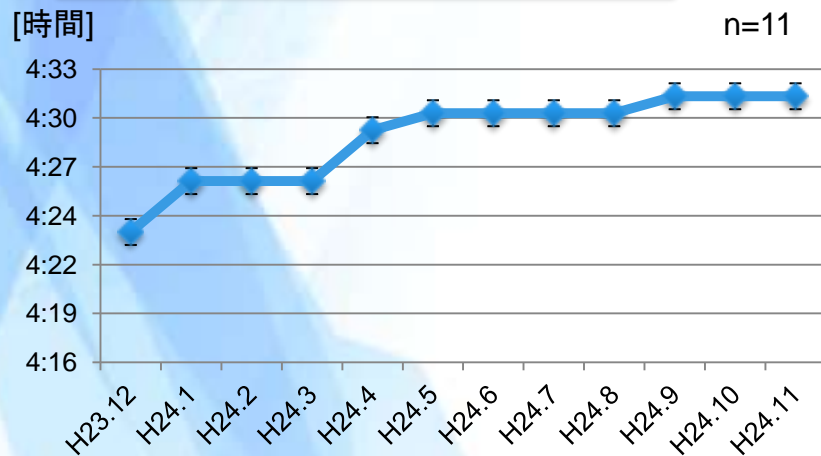
DWとCTR

について後ろ向きに検討した。

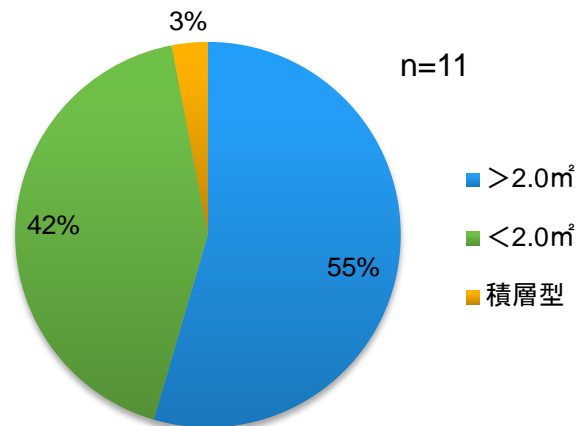
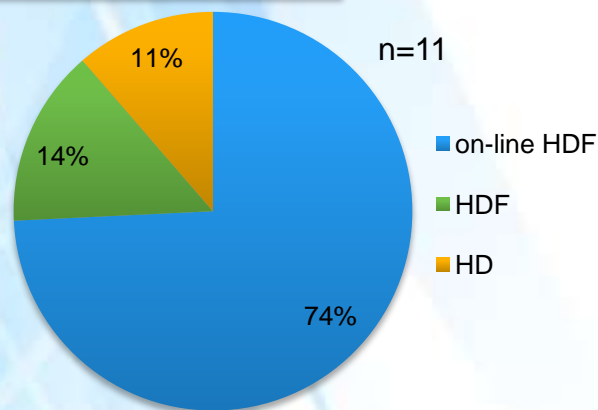


透析条件

1年間の透析時間とQBの変化



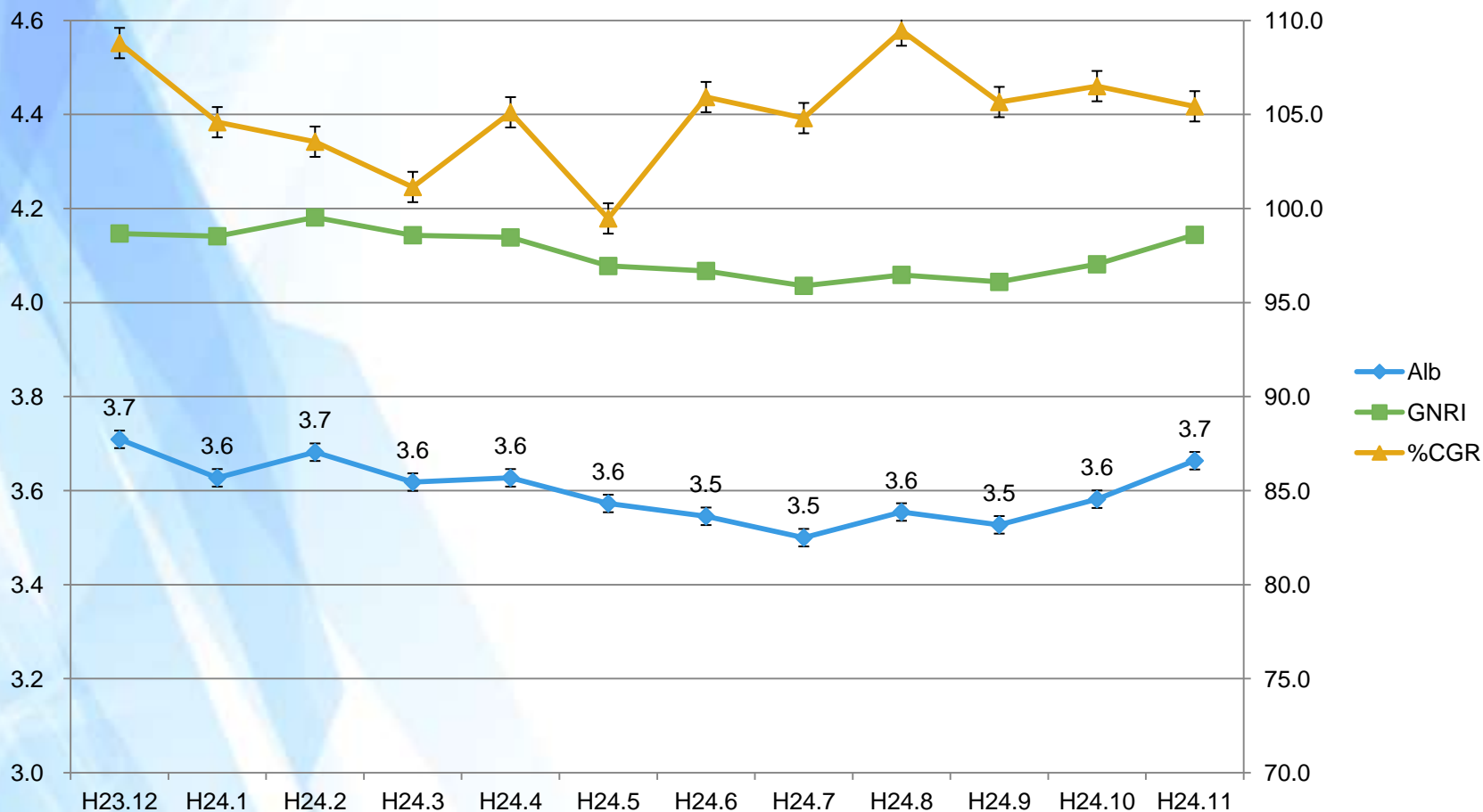
透析方法と透析膜



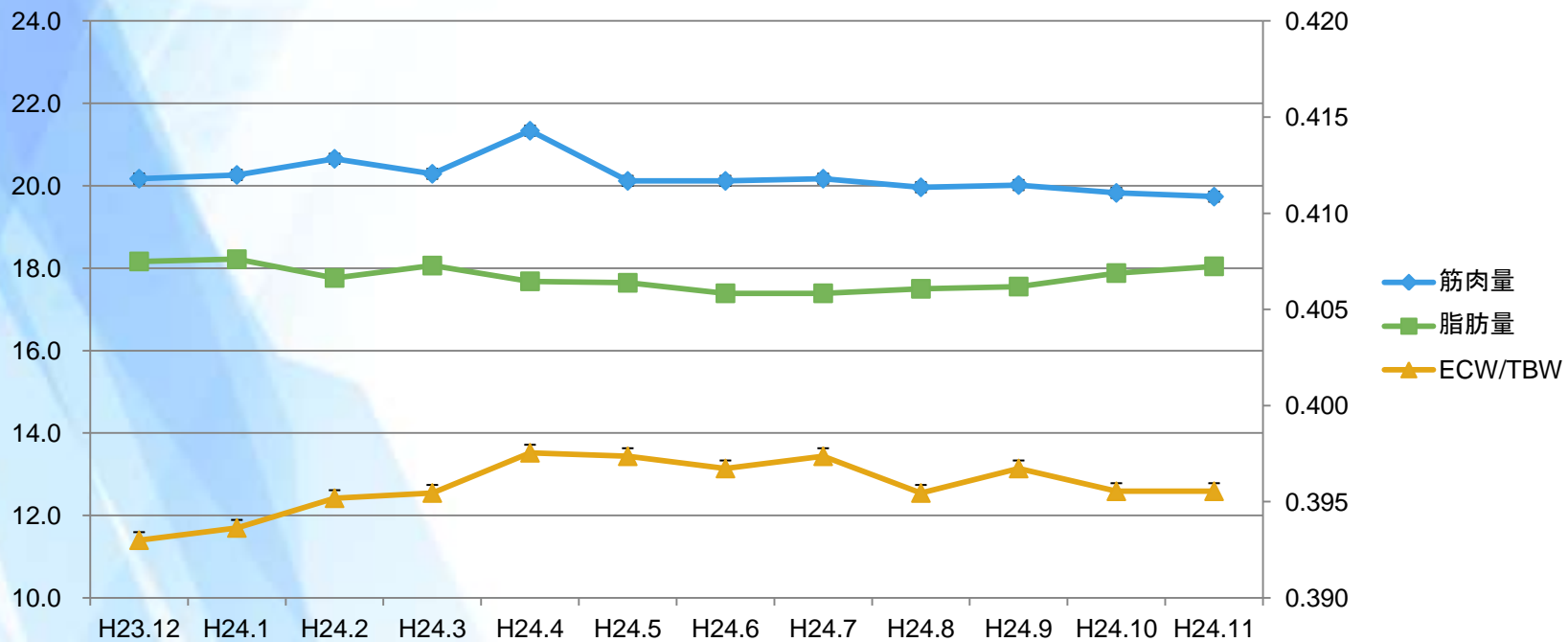
※期間中の透析回数132回に対する割合



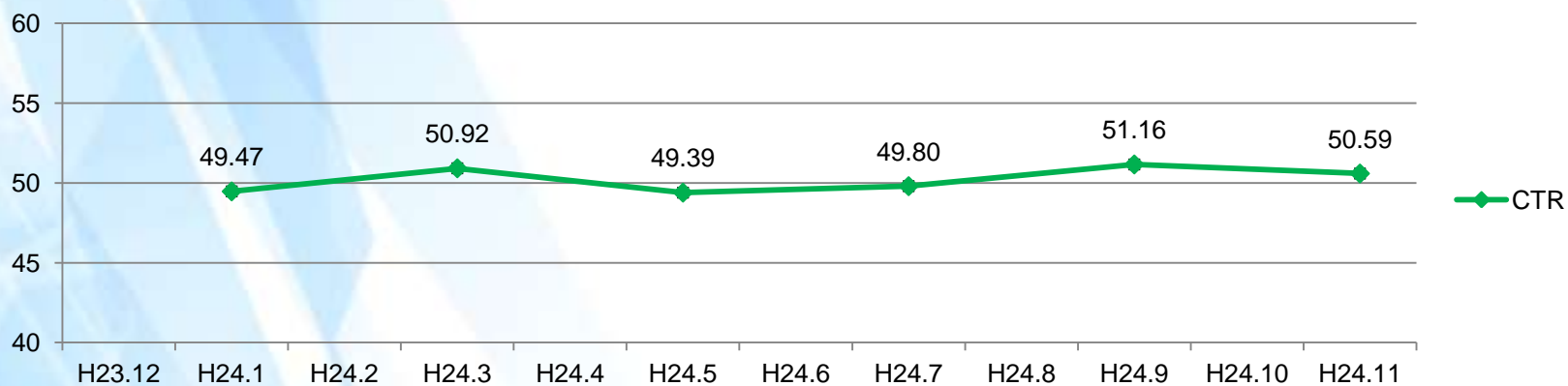
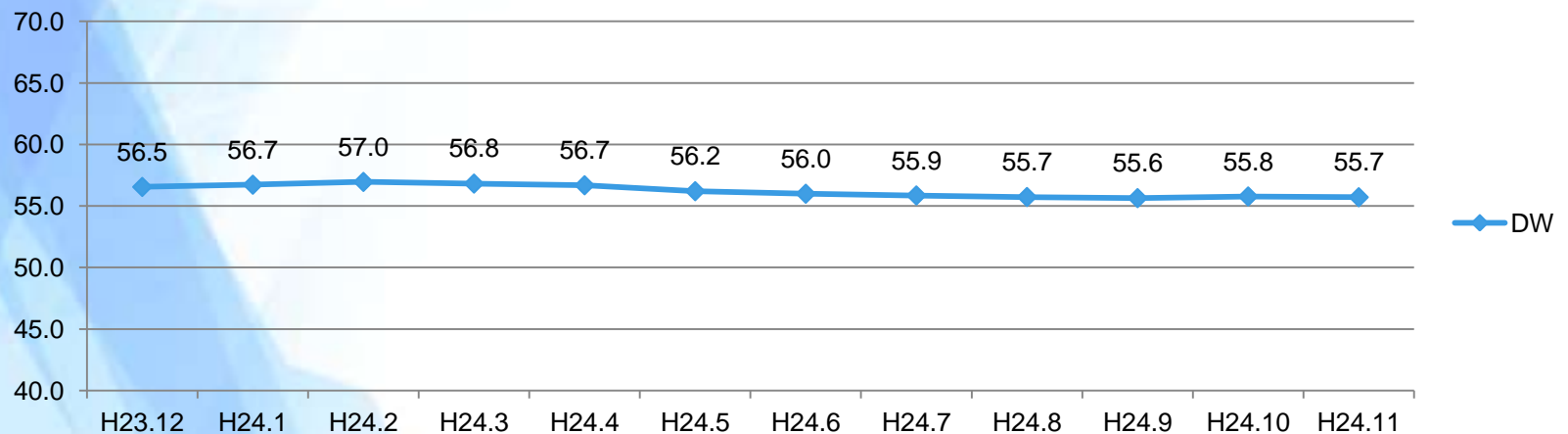
結果：栄養状態



結果：体組成



結果：DWとCTR



考察

- ・ 75歳以上の患者で、過去1年間継続して通院していた11名について検討した。
- ・ 1年間で平均透析時間が9分延長し、平均血流量も70ml/min増加したが、Alb、GNRI、%CGRなどの栄養状態の指標は低下しておらず、Inbodyを用いた検討でも筋肉量、脂肪量、浮腫率に変化を認めなかった。また、DWとCTRも変わらなかった。
- ・ 11名の検討と症例数は少ないが、外来透析可能な状態の落ち着いた高齢患者では、十分に透析量を増やしても痩せる事無く透析が可能であった。
- ・ 高齢者でも、しっかり透析を行うことで食事摂取量も多くなり、栄養状態が保持される症例も少なく無い。
高齢者だからと言う理由でだけでは、最初から透析量を落とした透析をする根拠にはならないのではないだろうか。



結語

- ・ 後期高齢者の透析患者でも、栄養の観点からは十分な透析を行う事が大切であると思われた。



自施設とJSDTの年齢別透析指標の比較

平成24年11月時点のデータ

		全年齢	75～90歳
平均年齢	JSDT	65.1	-
	援腎会すずきクリニック	65.3	79.1
Dry Weight	JSDT	53.6	48.3
	援腎会すずきクリニック	59.7	52.3
spKt/V	JSDT	1.36	1.34
	援腎会すずきクリニック	2.09	2.16
血流量[mL/min]	JSDT	200	180
	援腎会すずきクリニック	359	324
透析時間	JSDT	3.9 *	3.78 *
	援腎会すずきクリニック	4.7	4.6
%CGR[%]	JSDT	99.8	95.4
	援腎会すずきクリニック	100.4	106.1
β 2MG[mg/dL]	JSDT	31.7	30.9
	援腎会すずきクリニック	23.8	24.0

n=70

n=14



HPM研究会 COI 開示

筆頭発表者名： 鈴木 一裕

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。

